

<<研究活動紹介型>>

提供授業ごとに、オンデマンド配信20分間とリアルタイム配信45分間があります。

高等学校での利用方法に合わせてお選びください。

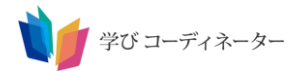
なお、オンデマンド配信につきましては質疑応答は別の日時になります。お申し込み時にご希望の日時を明記してください。

学びコーディネーターとのマッチングが不調の場合、質疑応答は実施されません。

リアルタイム配信では、45分の時間内に質疑応答も含まれます。お申し込み時にご希望の日時を明記してください。

学びコーディネーターとのマッチングが不調の場合、リアルタイム配信は実施されません。

下記表で、連続した色は同一講師を示しています。



授業番号	所属研究科	授業テーマと内容	オンデマンド配信	リアルタイム配信
			20分	45分
0101	文学研究科	感情とうまく付き合うにはどうすればよい？	○	
		私たち人間は、複雑に発達した感情を他人と伝えあうことによって、仲間をつつたり、結束を強めたりすることができます。しかし、発達した感情を持つがゆえに、辛い思いをしたり、ときには判断を誤ったりすることもあります。どうすれば、感情という諸刃の剣とうまく付き合っているのでしょうか？この問いは、哲学者たちによって考えられてきました。今回の講義では、デカルトとスピノザという、17世紀の哲学者たちの知恵を借りつつ、人間と感情の関係を考えてみたいと思います。		
0102	文学研究科	孤高の哲学者・スピノザの人生	○	
		皆さんは「哲学は大学の先生がやるものだ」と思っているかもしれません。しかし歴史上には、つねに周縁に追いやられながらも、傑作を遺した哲学者がいました。彼の名はバルーフ・デ・スピノザ。スペイン系ユダヤ人である彼は、オランダでは生まれながらにマイノリティでした。さらに、ユダヤ共同体からも23歳の若さで破門されてしまいます。宗教戦争の嵐が吹き荒れる激動の17世紀ヨーロッパで、歴史の荒波に揉まれながら、彼はどのような生涯を送り、哲学的傑作を遺すことができたのでしょうか。		
0103	文学研究科	文系大学院ってどんなコ？	○	
		高校生活と大学生生活、大学生活と大学院生活では、学びの内容や時間管理の方法に大きな変化が生じます。時間割が与えられる高校から、自分で組み立てる大学、そして限らない「自由」のもと、自律的にワーク・ライフ・バランスを調えねばならない大学院。大学院生には研究会や学会での報告、論文執筆、留学など、多様な活動が求められますが、なぜ大学院に進学したのか、大学院で身につくスキルとは何なのか、西洋中世史（中近世ドイツ史）を専門とする一京大院生が、研究を含めたライフスタイルやキャリア・プラン、そして大学院生活を送るうえでのライフハックについて紹介していきます。		
0104	文学研究科	音と声の歴史学	○	
		高校の世界史では、歴史上の「大事件」を中心とする「通史」を学ぶと思います。しかし歴史学では、政治的な事件以外の様々なトピックが、研究の対象になります。楽器の音色や声などといった聴覚情報もそのようなトピックの一つです。私は修士課程にて、中世ドイツ都市におけるトランペットの利用法の研究を行い、博士課程の今は同じく中世ドイツ都市における「声」、特に裁判史料に残る侮辱の言葉について研究を進めています。録音技術が生まれるまで、発せられては消えるだけだった音や声が、たまたま文字＝史料として残された時、どのような研究が可能となるのか、最新の研究を紹介していきます。		
0301	法学研究科	1人で決める？みんなで決める？—「民主主義」を考えてみよう	○	○
		本授業動画では、「民主主義」にかんする、「政治学」的な議論を紹介します。「民主主義」というテーマは、そもそも捉えどころがないばかりか、高校生には縁遠い「政治」の世界が想像されることもあって、難解な印象を受けるかもしれません。これに対して、本授業動画で理解してもらいたいのは、「民主主義」にかんする様々な論点が、むしろ、日常生活や身近な人間関係のなかでも問題になっているということです。短い動画にはなりますが、「当たり前」で済ませていた考え方のうちに、「当たり前」では済まされない論点を見つけていくという、大学における「学びのあり方」を伝えたいと思います。		
0302	法学研究科	「正義」のヒーローが「自由」の敵になる時はあるか？—政治学入門	○	○
		本授業動画では、「自由」や「正義」にかんする「政治学」的な議論を紹介します。「政治学」といっても、高校生には縁遠い「政治」の世界が想像されることもあって、関心を持ちづらいかもしれません。そこで、本授業では、日常生活や身近な人間関係にかんする事例や、エンターテインメント作品を取りあげることで、政治学の論点を分かりやすく紹介したいと思います。それを通じて、政治学や法学についてのイメージを掴んでもらうと同時に、私たちの日常的な違和感や関心が大学の学問として発展する仕方を知ってもらうことを目標としています。		
0401	理学研究科	通信の安全性を「証明」せよ！	○	
		本講演では、通信が安全であることを「証明」する技法を紹介します。アリスはボブにメールを送りたいとします。しかし、通信路はイブに盗聴されているかもしれません。そこでアリスは、メールを暗号化して送ることにしました。任意のメッセージM,M'に対し、Mの暗号化とM'の暗号化がイブから見ても「区別できない」のであれば、メールの内容をイブに知られることはない、つまり安全であると言えるでしょう。通信の安全性を「証明」するときには、この「区別できない」という概念が重要な役割を果たします。		

0402	理学研究科	Definition Quest ～定義をめぐる冒険～	○	
		何かを数学的に研究するとき、まずはキッチリとした定義を与える必要があります。しかし、厳密な定義を与えることは、容易ではありません。また、応用や一般化しやすい定義であることが望ましいです。本講演では、「正しいこと」「便利であること」という2つの側面から、定義の難しさ、面白さを探ります。		
0403	理学研究科	身近だけど意外と知らない？コウモリについて知ろう	○	
		私たちの身の回りには、たくさんの生き物が生息しています。闇夜を舞うコウモリも、私たちの生活に最も身近な生き物の1つです。しかし、彼らについて多くを知っている人は少ないでしょう。そもそもコウモリは何に近縁な動物なのでしょう。どうやって暗闇を飛んでいるのでしょうか。本授業では、コウモリとその他の動物、そしてコウモリ同士を比較することで系統分類学の基礎を学びながら、コウモリたちがもつ普遍性と独自性に迫ります。		
0404	理学研究科	生き物の研究を通して世界とつながる	○	
		国境を持たない生き物について研究するには、研究者もまた国境を超えて研究を展開する必要があります。私自身、研究対象であるコウモリの研究をするために、あらゆる国の博物館に訪問して標本調査を実施したり、現地の人達と共同でフィールド調査を実施したりしてきました。本授業では、各国で実施してきたフィールド調査の実体験や、博物館の役割、標本の種類などの話を交えながら、グローバルに研究を展開する意義と楽しみについて考えます。		
0405	理学研究科	プラズマとは一体なんだろう？	○	
		プラズマとは固体・液体・気体につく物質の第四の状態といば言われます。プラズマは宇宙に普遍的に存在していますが、宇宙だけでなく我々の日常生活にも密接に関わっています。人類が生きていくのに必要不可欠な太陽はプラズマの塊でし、一方で、日常生活でよく見かける蛍光灯の光、雷などもプラズマの一種です。テレビで見えるようなオーロラもプラズマが引き起こす現象です。プラズマがどのような分野でどのように研究されているか、ご紹介したいと思います。※本テーマは少し専門的な内容を含みます。入門的な内容をご希望の場合は、「太陽惑星系電磁気学」をお勧めします。		
0406	理学研究科	太陽惑星系電磁気学へようこそ	○	
		みなさんは「太陽風」と呼ばれるものをご存知でしょうか。地球は、太陽から吹き出るプラズマの塊である太陽風によって、常にさらされています。この太陽風の中では、とてもではありませんが、生物は生きていきません。地球に存在する磁場が、太陽風から生物を守るバリアーとなっているのです。時に、地球磁場と太陽風との相互作用の結果、オーロラのような人々を魅了する現象が起きることもあります。このように、地球や他の惑星と太陽との間に起きている現象を研究する分野を「太陽惑星系電磁気学」と呼んでいます。この授業では、太陽惑星系電磁気学とはどのような学問なのかをご紹介したいと思います。		
0407	理学研究科	フィールドワーク ネズミとボクと、時々、ハブニング	○	
		今年の干支はネズミ。ネズミというとペットのハムスターや、家などに出るドブネズミ、実験用のマウスくらいしか知られていますが、実は日本だけでも20種以上生息しており、世界全体の哺乳類の中では一番種数の多いグループになります。今回は、そんなネズミの生物としての面白さを紹介します。私はこれまでネズミ研究のために日本各地、北は北海道から南は与那国島まで、海外では中国やベトナムなどの東南アジアのフィールドに行ってきました。ネズミを追い求めてフィールドへ行くと様々なハブニングにも遭遇します。そんな実際に体験した出来事も交えてお話しします。ネズミ研究とフィールドワークの面白さを学んでみませんか？		
0408	理学研究科	生物標本、上から見るか？横から見るか？	○	
		哺乳類の標本というと博物館に展示されている、迫力あるポーズをしたものを想像するかもしれませんが、しかし、研究に使われる標本は、そのような本剥製だけではなく他にも、仮剥製や骨格標本などさまざまな標本があります。研究で使われるさまざまなタイプの標本について紹介し、それらがなぜ重要なのか、標本を残していく重要性についてお話しします。ベトナムやラオスなどの海外での標本作成の体験談や、標本を使うことでわかる生き物の不思議についても紹介します。		
0501	医学研究科	医療職と研究のやりがいと難しさ～進路選択の一助に～	○	
		学生の皆さん、今は進路に悩んでいる真っ只中ではありませんか？私も10年前、高校生で進路に悩んでいました。現在私は医療職（理学療法士）をしながら、大学院生として研究もしています。ほんの少しのきっかけから志した医療と研究の畑です。この仕事のやりがいと難しさを、自らの経験と研究成果を交えながら分かりやすく説明したいと思います。		
0502	医学研究科	正しい情報を見極めてみよう～これからの時代を生きる力を育もう～	○	
		近年、テレビや雑誌のみならず、TwitterやInstagramなどのSNSの流行により、いつでも、どこでも、情報にアクセスできるようになりました。今年に入ってから、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大に伴い、様々な情報が氾濫しています。本授業では、研究をしている立場から正しい情報を見極める方法を分かりやすく説明したいと思います。		

0503	医学研究科	「がん」をiPS細胞にー生命科学に学ぶ, アイデアの発想法	○	○
		ノーベル賞を受賞するような独創的なアイデアはどのように生まれるのでしょうか？ 本講では具体的に、再生医療の技術基盤として注目を集めているiPS細胞に注目し、あえてこれを「がん」にしてしまうことで、移植に応用してしまうという斬新な発想の研究を紹介します。未来永劫、ひとの「いのち」を救い続けるような医療技術を真に社会へと展開するための技術的・倫理的な問題点なども考えながら、再生医療の先端に触れていただきます。2018年度ノーベル医学・生理学賞を受賞した本庶佑先生と演者の共同研究から、ライフサイエンス分野でインパクトのあるアイデアを創出するための真理について、考察を加えます。 #iPS細胞 #がん転移 #再生医療 #臓器移植 #ケミカルバイオロジー		
0504	医学研究科	LINEにAIを実装してみたら、途上国での旅行者下痢が解決したってよ。	○	○
		実は、高校生にも馴染みの深いLINEを使うことで、途上国で深刻な旅行者の下痢感染症問題を解決できるかもしれません。私はLINEで病気(特に下痢)を診断してくれるAIチャットボットを導入し、タイ王国で調査研究を行っています。こんなことで、立派に大学で研究ができます。授業では、開発に至った経緯・ボットを使った薬剤耐性に関する疫学調査研究の紹介を行います。デモ動画も実演しながら、抗生物質を通した「薬学」と、AIテクノロジーの最先端に、楽しく触れていただければと思います。 ※補足：2050年、今使っている薬が、大切な人の治療に効かなくなるかもしれません。これを「薬剤耐性菌問題(AMR)」と呼びます。AMRはWHOが選定する「グローバルヘルスが直面する健康に関する脅威10選」や、国連が掲げるSDGsの達成のために解決すべき急務の社会課題とされ、アフターコロナのヘルスケア課題として注目を集めています。旅行者下痢の解決は、このAMR問題の解決に資するといわれています。 #SDGs #アフターコロナのヘルスケア #AIチャットボット #LINE #テクノロジー #薬剤耐性菌問題(AMR)		
0505	医学研究科	メダカを使ってヒトの病気を研究する	○	
		メダカは日本で古くから観賞魚として親しまれてきました。もしかすると自宅で飼育している方もいるのではないかと思います。そんな身近な魚であるメダカですが、近年日本を中心にヒトの疾患モデルとして利用される機会が増えています。「実験動物ってマウスじゃないの？」「なんでメダカなの？」「メダカの何がすごいの？」このような疑問を解消できるよう、モデル動物としてのメダカの利点や、実際行われている研究について分かりやすく紹介します。		
0506	医学研究科	様々な画像診断機器について学ぶ	○	
		病気になったり怪我をした時、病院に行くと、レントゲン、エコー、CT、MRIなどの検査を受けることがあります。CTやMRI検査を受けたことはなくても、体が輪切りにされた画像を見たことがある人は多いでしょう。これらの検査は体の中を調べ、それを画像化し、診断するもので、画像診断と呼ばれています。ではこれらの検査は、それぞれどんな仕組みで、どんなことを調べているのでしょうか。 本授業では私の研究対象であるMRIを中心に画像診断機器について解説します。		
0507	医学研究科	大学で学ぶ生物ってなに？	○	
		「生物は暗記科目」と思っていないですか？ しかし大学で生物を学ぶ際に一番大事なのは「考え方を学ぶ」ということ。そしてこれは生物だけでなく他分野の学びにも共通しています。暗記だけではない、大学だからこそ学べる生物についてご紹介します。また、大学で「考え方を学ぶ」ためには、いま何をしておく必要があるのかも併せてお話します。		
0508	医学研究科	細胞内の品質管理ー選択的オートファジーとはー	○	
		私たち生物は多数の細胞で構成されています。細胞の中はちょっとした工場のようなもの。必要な製品を受注して、作って、運んで…。そしてたまに不良品が出来てしまいます。さらに、外部から不審者が侵入して工場の邪魔をしてしまうこともあります。このような不良品や不審者を取り除かないと、体全体が病気になってしまうことも。細胞はどうやってこれらを見分け、取り除いているのでしょうか？この品質管理の仕組みについて、「選択的オートファジー」というイベントを中心に、私自身の研究も交えてご紹介します。		
0509	医学研究科	「志望動機」の謎と奥深さー入学試験や就職試験に向けてー	○	
		今回の授業では、入学試験や就職試験で必ず登場する「志望動機」を批判的に解説し、生徒一人ひとりが自身の志望動機について考えます。 講師は、医学研究科で「医学部の志望動機」を研究している循環器内科医師が務めます。		
0601	工学研究科	光で水を分解するー半導体光触媒による水分解反応ー	○	
		水は水素と酸素からできています。水はとても安定なので、勝手に水素と酸素に分かれたりしません。しかし、光のエネルギーをつかうと、水を水素と酸素に分解することができます。身近なところで言うと、植物の多くは光合成と呼ばれるプロセスの中で、光のエネルギーをつかって水を分解していますよね。 この授業では、最近注目されている「人工光合成」の1つである、半導体材料を使った水分解反応をご紹介します。また、近年実現が期待されている、水を分解して出てきた水素をグリーンエネルギーとして利用する、「水素社会」についてもご紹介します。		
0602	工学研究科	元素の周期表ー化学者のロマンを語るー	○	
		水素、酸素、鉄、．．． など。これまで発見された118種の元素がすべて並んでいる「元素の周期表」。理科の教科書には必ず載っている周期表ですが、その成り立ちや意味についてはあまり知られていないのではないのでしょうか。 この授業では周期表にまつわる興味深いエピソードを交えながら、化学者に日々興奮と驚き（ときには落胆）をもたらす多様な元素たちについて語ります。		

0603	工学研究科	細胞培養とバイオエンジニアリング	○	
		ES細胞やiPS細胞で有名な幹細胞の利点の一つに、体外つまり実験室で培養して無限に増やせる点があり、この性質を活かしてさまざまな研究や「ミニ臓器」の開発が進められています。このような細胞培養は今やバイオ研究に欠かせない基本的な手法となっており、また、その発展には「工学」の貢献が少なからずあります。そこで、まず細胞とは何か簡単に解説し、細胞培養の歴史をおおまかに振り返りながら、最新の幹細胞技術についてバイオエンジニアリングをキーワードにまとめてみます。		
0604	工学研究科	京大式『超』SDGs入門	○	○
		SDGs（持続可能な開発目標）を知っていますか？SDGsは2015年の国連サミットで採択された、誰一人取り残さず地球を維持させるための、17の目標と169のターゲットからなる国際目標です。ますます耳にすることが増えているSDGsについて、京大で行っている持続可能性に関する取り組みを参考にしながら、SDGsを超えて持続可能性を考えるきっかけとなる問いを紹介します。 ※SDGsを事前に眺めてからの参加をお願いします。		
0605	工学研究科	地球のお医者さんは誰？ -環境工学って？-	○	
		科学の進歩に伴い、さまざまな環境問題が発生しています。「水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病」や最近話題になっている、原発事故による放射能汚染、ホッキョクグマの生態と迫る危機、地球温暖化や環境汚染が原因となる病気など、生きることに関わる環境問題についてよく知られていますが、環境工学がこれらの問題をどのように研究し、解決するかはあまり知られていません。ここでは、水、空気、土壌、廃棄物、毒物などを扱う環境工学を専攻している学生は何を勉強しているのか、環境汚染や環境問題をどうやって解決するかを紹介します。台湾からの留学生なので、台湾と日本の現状も紹介します。		
0606	工学研究科	うんこのライフサイクル -環境維持の静脈、下水処理場-	○	
		食べること、トイレに行くことは、生き物の生命維持の証です。毎日体から出てきた排泄物は、胃と腸で消化、吸収されずに残ったものです。トイレに流した後、どこへ行くのか、どのように処理をするのか。環境維持の静脈、下水処理場という、生活排水（台所、お風呂、洗濯水など）を処理する施設の役割を紹介します。また、微生物が集まった排泄物を食べ、水がきれいになる一方、後に残った「汚泥」と呼ばれる廃棄物が発生します。この「汚泥」は処分されるだけでなく、「資源」になる場合もあります。汚泥の処分方法や、汚泥の有効利用について紹介します。また、台湾からの留学生ですので、台湾と日本の現状も紹介します。		
0701	農学研究科	酸化還元反応で読み解く、農業による環境破壊の可能性？（導入編）	○	
		高校化学で習う酸化還元反応は、田んぼの中など、私たちの身近なところでも起こっています。この反応によって生じる物質は、実は地球温暖化や地下水汚染といった環境破壊の原因になっているのですが、最近ついにこの酸化還元反応をコントロールできる可能性が見えてきました。 この授業では、その導入として、なぜ農業と環境破壊が関係しているのか、この問題に取り組むにあたってなぜ酸化還元反応の知識が必要なのかを分かりやすく説明します。		
0702	農学研究科	酸化還元反応で読み解く、農業による環境破壊の可能性？（発展編）	○	
		高校化学で習う酸化還元反応は、田んぼの中など、私たちの身近なところでも起こっています。この反応によって生じる物質は、実は地球温暖化や地下水汚染といった環境破壊の原因になっているのですが、最近ついにこの酸化還元反応をコントロールできる可能性が見えてきました。 この授業では発展として、農地土壌中で起こる酸化還元反応のメカニズムに具体的に触れ、問題解決方法について、実際に行っている研究を例に分かりやすく説明します。		
0801	人間・環境学研究科	「新種」を見つける（生物研究の進め方）	○	
		生物の「新種」を発見する。まだ世界中の誰も知らない生き物を自分で見つけるということは、とてもわくわくすることですね。でも、新種の発見は決して難しいことではなく、実は誰にだって出来ることです。 この授業では、どのようにして新種を発見し、それをどうやって世界に「新種だ」と発表するのかを、実際の大学での研究を軸にお話しします。		
0802	人間・環境学研究科	どうして生物は多様なのか（研究テーマの探し方）	○	
		世界中には、人が知っているだけで190万種もの生物が住んでいます。彼らはどうやって、ここまで種数を増やしてきたのでしょうか。 この授業ではまず前半で、陸上と海のそれぞれでどのようにして生物多様性が作られてきたのかをお話します。そして後半では、海の生物の多様性を形作ってきた大きな要因「共生系」についてお話をします。身の回りの草花や虫たちが、ちょっと違う目線で見えるかもしれません。		
0803	人間・環境学研究科	なぜ地理学を学ぶのか？	○	
		スマートフォンが普及した現在、地図は身近なものになりました。スマートフォン越しに見える地図と実際の場所に行ってみると異なることがあります。地形図を手に取ると、その場所の地域の変化を読み取ることができます。実際の地形図を手に取って、地図の持つ面白さを実感してみましょう。普段、通っている道が変わって見えるかもしれません。また、一般的な山田さんの1日を通して、地理学からどのような研究ができるか、考えてみましょう。		
0804	人間・環境学研究科	地域の魅力を発見しよう	○	
		毎日通っている高校の周りには何があるでしょうか？ 普段、気に留めない自分たちの地域の事を調べてみましょう。実は、歴史的な出来事がそこに眠っているかもしれません。時代の異なる地元の地形図を見比べることを通して、知っているようで実は知らない自分の地域の魅力を再発見することを目指します。 地域への関心を高めることが本授業の狙いです。		

0805	人間・環境学研究科	映画作品の秩序を数字で測る	○	
		芸術作品をめぐるのは、「芸術性を追求すると作品が売れない」「人気のある作品にするためにしたい表現をあきらめる」といった、芸術表現と経済的成功とのトレードオフ関係をイメージする人が多いのではないのでしょうか？このイメージは実際に、映画を語る際にもしばしば登場します。しかし、本当にこうしたイメージは現実に沿ったものなのでしょうか？私の実施した計量分析を説明しつつ、研究の進め方についてもお話ししたいと思います。		
0806	人間・環境学研究科	キャラから考える私と社会	○	
		私たちは、人々との関係＝社会を生きており、自分に与えられたキャラを演じなければならない場面に日々直面しています。先生に対して、友達に対して、家族に対して、と、誰と一緒にいるときでも、何らかのキャラとして振る舞っている。だとしたら、私たちは何らかのキャラとして生きられないといったほうがいいのかもしれませんが。ならば、本当の自分はどこにいるのでしょうか。この問題から、社会と個人の関係について考えます。		
0807	人間・環境学研究科	幸せの国ブータンから考える―「平等」って何？	○	
		ブータンは、19もの言語をもつ多言語国家です。でも、すべて文字がありません。今から60年前、ブータンで始めて学校教育がはじまりました。さて、どの言語で授業をしたらいいのでしょうか？！コネスコは、生徒の母語が一番いいと思います。子どもたちが一番よく知っている言語だから、でもそれは、ちょっと無理です。文字はないし、第一、1クラスに5～6種類の民族の子どもたちが一緒に学んでいるのですから。そこでブータンでは、英語にしました。それから10年ほどして政府は、国語（ゾンカ語）に文字を作り、ぜひ、ゾンカ語で授業しようと思いました。しかし今も英語が続いています。国際語だから……。どの言語が子どもたちにとって最善で、誰にでも平等なのか、考えてみませんか。		
0808	人間・環境学研究科	身近な生物があつた製品に？！生物学と工学の融合、ネイチャーテクノロジーとは！ ☆体験型☆	○	
		＜①ネイチャーテクノロジーを知る＞生物の能力を製品やモノづくりに活かすネイチャーテクノロジーについて、環境問題を背景に、活用の利点や魅力などをわかりやすく説明します。生物と工学はかけ離れているように感じますが、人間が想像できないような驚きの能力を持っている生物がいることを知ってもらいます。 ＜②身近に感じる＞ネイチャーテクノロジーが実は身近にあることを感じてもらえるように、マジックテープや新幹線など、すでに製品として活用された例を紹介します。 ＜③体験しよう＞5分程度の簡単な実験で、生物の能力を体験してもらいます。（道具はこちらで用意し郵送します。）		
0809	人間・環境学研究科	アイデア勝負！生物の「スゴワザ」、なにか製品に使えないかな？ ☆考察型☆	○	
		＜①ネイチャーテクノロジーを知る＞生物の能力を製品やモノづくりに活かすネイチャーテクノロジーについて、発展の歴史や今後期待されることなどをわかりやすく説明します。生物の能力を見つけるポイントや、生物の能力を活かしたモノづくりの流れを、メーカーでの研究経験も交えて解説します。 ＜②生物の凄さを感じる＞生物の凄さや研究へ興味を持ってもらえるように、現在も仕組みが不明な能力をもつ生物を紹介します。 ＜③考えてみよう＞特徴的な能力を持つ数種類の生物を題材として、利用方法やどのような製品に活かそうかなどを考えてもらう。		
0810	人間・環境学研究科	年代のものさしー考古学者はどのように遺跡の年代を決めるのかー	○	
		考古学者は遺跡を発掘するということはよく知られている。「これは平安時代の屋敷です」や「これは戦国時代の城郭です」などを語る考古学者はテレビや新聞で一度は目にすることがあるかもしれない。しかし、考古学者はどのような方法で遺跡の年代を知ることができたのかと、不思議に思うことはあったらどうか。 この授業は、具体例を挙げながら、考古学者が遺跡の年代を判断する際によく利用する年代のものさしである「編年」について紹介し、編年を作りあげる方法と理論を解説する。		
0811	人間・環境学研究科	考古学から考える日本の茶文化	○	
		お茶を飲むという行為は日常生活の中で何気なく行われている。しかし、茶はその文化の発祥地である中国でも最初は飲み物としてではなく、むしろ薬用的な効果が重要視され、その後徐々に飲料・嗜好品として発達してきた。日本においても、茶を飲む文化は大きく三つの変化期があり、茶を煮て飲む、茶末に湯を注いで茶筌で攪拌して飲む、葉茶を湯に浸して飲むという三つの茶法がそれぞれ平安時代、鎌倉時代、江戸時代に中国から伝来した経緯がある。 この授業においては、文献学の研究を紹介しつつ、考古学からみる日本茶文化の様子を描き出す。		
0812	人間・環境学研究科	日本文化を哲学する？	○	
		「哲学」と聞くと、何か堅苦しいものを想像するかもしれませんが。しかし、実際には哲学を使って、身近なものを語る（あるいは哲学する）ことができます。 この授業では、日本の伝統的な美的感覚である「いき（粋）」について哲学した九鬼周造を紹介します。哲学を使って日本文化をどのように語れるのかを、九鬼が使った具体例を見ながら考えていきます。最後に、他の言語に翻訳できない「いき」を国際的に共有できるのかという問題を提起します。日本文化を積極的に海外に発信しようとしている現代で、文化交流のあり方考える機会を提供します。		

0813	人間・環境学研究科	技術は私たちの味方なのか？－現代の技術との関わり方を考える	○	
		2011年の福島原子力発電所の事故以降、私たちは自分たちが作り出した科学技術との関わり方をますます考える必要に迫られています。現在まで科学技術は、私たちの生活を豊かにしてきたといわれますが、本当にそうなのでしょうか。そして、もし問題があるとしたら、何が問題なのでしょう。この授業では、どの哲学者よりも早く原子力発電の問題を考え、現代技術の問題を考えたハイデガーの哲学を紹介します。彼は、技術によって人間までも道具のように扱われることを問題視していました。生活に役立っている反面で、時に私たちに牙をむくように思われる技術に私たちはどのように関わるべきなのでしょう。この問題について考えていきます。		
0814	人間・環境学研究科	「アベンジャーズシリーズ」から考える自由と安全をめぐる問い ―政治哲学入門	○	
		政治について考えるとは、自らの投票先を考えることだけを意味するわけではありません。自分の信じる価値観を見直すところから、政治についての思考は始まります。この講義では、アベンジャーズ・シリーズの一つ映画『シビルウォー』を通して、政治や自らの価値観について考えるきっかけを提供できたらと思います。この作品では、共同体における自由と安全は必ずしも両立しないという現代的な問題が描かれています。		
0815	人間・環境学研究科	アイドルとしてのヒトラー？ ―ナチズム研究入門	○	
		昨今、世界中で移民の排斥や強い指導者を求める動きがあります。こうした状況のなかで民主主義の限界が叫ばれています。私たちは一体、どのような価値観に則って、政治を行えばよいのでしょうか。この講義では、ナチズムの指導者であるヒトラーとはどのような人物だったのか、そしてどうして彼が人気を集めたのかということに注目します。彼に魅せられた当時のドイツ人たちを現代人の肖像として、昨今の状況を考えるきっかけになればと思います。		
0816	人間・環境学研究科	「食」から社会を考える－食文化研究の系譜と現代への眼差し－	○	
		「食」は人類普遍的な営為でありつ、各社会における文化的多様性を呈している。こうした「食」の多様性について、多くの食文化研究の蓄積が見られる。今回の授業ではまず、こうした食文化研究の基本的な関心とその系譜を紹介する。その上で、今や「食」において看過することのできない国家という観点をういながら、イタリアのワインにおける事例を提示し、現代社会における「食」の在り方を考察する。そして、現代の「食」について関心を持ち、思慮をめぐらす契機になることを望みたい。		
0817	人間・環境学研究科	感覚を問う－「アフオーダンス」をめぐる議論を中心に－	○	
		人間は、その生きる世界をどのように感じ、知覚しているのだろうか。今回の授業ではまず、こうした人間存在に関する命題について、J・ギブソンによる「アフオーダンス」を紹介する。さらに、「アフオーダンス」を感覚という領域で議論を展開したT・インゴルスは、感覚を環境とその実践的行動によるとの論を整理する。しかし、こうした議論には、D・ハウズをはじめ、感覚の文化規定性を述べる論者からの批判があり、両者は対立している。最後に、こうした対立を乗り越える方法として、文化人類学的参与観察を採用することの意義を述べる。		
0818	人間・環境学研究科	奈良のシカから「野生」動物との共生を考える	○	
		動物は様々な形で観光対象となってきた。中でも、奈良公園で「野生」のシカが自由に闊歩している光景は特異であり、国内外を問わず多くの観光客を惹きつけている。奈良のシカは、観光対象として有名であるだけでなく、奈良公園の「景観」としての価値が天然記念物に認められ保護された動物でもある。山に生息すれば害獣とされるニホンシカである「奈良のシカ」は、どのように特別な存在となつたのだろうか。保護され、管理はされているものの、所有者の明確でない奈良のシカと空間を共にすることは、どのような問題を生じさせるのだろうか。この授業では、野生動物との共生の難しさについて、「奈良のシカと観光」の事例から考える。		
0819	人間・環境学研究科	「野生動物」はどのように飼育するべきか？ －動物園における人と動物の関係と動物福祉について－	○	
		近年、動物園は希少な動物種を保存する場としての役割を担っている。そのため、様々な動物種を飼育し、野生でしか見かけないような希少な動物も飼育する。そのなかで重要なのが「エンリッチメント」という、動物の特性を活かし、動物福祉に繋がるような飼育環境や方法のあり方である。野生動物は日々どのように飼育されているのだろうか。また、どのような人と動物の関係が動物園では理想とされるのだろうか。発表者が専攻する文化人類学は、多様な人と動物の関係を、文化や社会に着目して明らかにしてきた。この授業では、京都市動物園での調査成果をもとに、文化人類学の視点から現代における人と動物の共生のあり方や動物福祉について考える。		
0820	人間・環境学研究科	市販薬から私たちの知識について考える	○	
		「知識の哲学」では、私たちの信じていることが（単なる意見ではない）知識だと言える条件や、知識の構造を研究します。しかしこれだけ言われても、なぜそんなことが問題になるかぴんと来ないかもしれません。そこで今日は、薬を例に知識の哲学が実生活とどう結びつかを考えてみます。市販薬には様々な注意書きがあり、薬局で働く私は「これ飲んでも大丈夫？」と聞かれ困ることがあります。過去には市販薬の副作用で亡くなった人もいます。しかし、そもそも私たちは「絶対に安全だ」とお墨付きを与えられるのでしょうか。そしてそのお墨付きがなければ薬についての考えは知識たりえないのでしょうか。デカルトとリードという二人の哲学者を軸に、この問題に取り組んでみましょう。		

0821	人間・環境学研究科	なぜ「常識破り」には常識が必要なのか	○	
		近年、様々な広告でよく「常識を打ち破れ」とか「常識を乗り越えろ」といった言葉を目にします。常識を「普通の人々が信じていること」くらいに広く捉えたと、そうした平凡な常識を否定し新たなスタンダードを提供する「常識破り」になることが良いことだと考えられているようです。しかし一方で「常識的に考える」と言う場合のように私たちはしばしば常識に訴えますし、常識は常識でそれなりに大切な気がします。常識は単に常識破りによって乗り越えられるだけのもので、常識破りには常識がまったく必要ないのでしょうか。ここでは常識破りが極端すぎて受け入れがたいケースを検討することを通じて、常識が私たちの生活において果たしている役割について考えてみたいと思います。		
0822	人間・環境学研究科	スイスの言語	○	
		国民の3人に2人が複数の言語を使って暮らすスイスについて、言語、歴史、人口構成、教育の観点からお話しします。様々な言語が接触するスイスにおける言語への心理的な距離は、日本人が外国語を見るそれとはまったく異なります。だからこそ、スイスでは何のために言語を教え/学ぶか「なぜ○語を教えるか」といった議論が行われており、日本にはない視点を与えてくれます。		
0823	人間・環境学研究科	社会言語学への誘いー多言語社会における言語へのまなざし	○	
		日本は生活のあらゆる場面で日本語が通用する単一言語的な国です。一方、世界では複数の言語が話される国が珍しくなく、日本と異なる言語へのまなざしを持っています。例えばスイスでは、中学校卒業までに、二つの言語を学びます。近年は、英語ニーズの高まりや移民の増加によって従来の多言語教育モデルの意義が見直されています。社会のニーズの変化に応じ教育制度を反省するスイスの姿勢は、さまざまな言語との接触が当然のスイス社会だからこそ起こる問題ともいえます。しかし、だからこそ、単一言語の日本で見過ごされている問題を見つけるためにとても大切です。本授業では、みなさんに言語教育と社会の関係を考えていただくチャンスを提供します。		
0824	人間・環境学研究科	心と体の相互作用をどう説明するか——「心身問題」序論	○	
		「心」はどうやって身体すなわちモノに作用するのか、あるいは身体はどうやって「心」に作用するのか。「心身問題」という科学と哲学にまたがる問題です。例えば「赤い信号が見えるので止まろう／行っちゃえ」というとき。「赤信号」という物質が電磁波を出してそれがわたしの視神経に到達して脳で処理されて、神経の信号が筋肉動かす。」このプロセスの中でわたしの心のようなものが働いて、行く／行かないと判断をしている、と普通考えられています。どうやって、心はこうした物質のプロセスに入り込むのでしょうか。こうした未だ解かれていない問題に取り組む喜びを知ってもらえたらと思います。		
0825	人間・環境学研究科	「運動」はどんな風にあるか	○	
		古典的な力学が完成して以来、基本的に物体の運動はどこまでも予想可能なものです。遠い星にも衛星を着地させられます。CGでいろんな動きが再現できます。運動というものを、人類はすっかり掌握してしまったのかもしれません。さて、運動というものは「ない」と断言する哲学者ががっついていました。エレア派のゼノンです。いくらでも反論できそうですが、彼の運動否定論を科学主義にまで及ぶものとしてあえて積極的に引き受けて、運動は方程式の中に書き込めない、と考える人もいました。ベルクソンという哲学者です。ベルクソンとともに、運動が「ある」ということの難しさに挑んでみましょう。		
0826	人間・環境学研究科	日本のカエルの多様性	○	
		身近そうで意外と知られていないことの多いカエルについて、形態や生態の多様性を紹介し、どのように彼らが進化し、多様性を獲得してきたのか、遺伝子解析を用いた実際の研究データをもとに考察します。生物多様性の重要性について理解を深めることができればと考えています。		
0827	人間・環境学研究科	両生類における外来生物問題	○	
		外来生物には、海外から日本に持ち込まれた国外由来の外来種と、日本国内のある地域からもともとなかった地域に持ち込まれた国内由来の外来種がいます。中国から日本に移入されたチュウゴクオオサンショウウオや、国内で関東や北海道に移入されたニホンヒキガエルなどを例に、遺伝子を用いた移入集団の研究を紹介し、生物の特徴や外来生物が生態系に与える影響などをもとに、外来生物問題に関して理解を深めることができればと考えています。		
0828	人間・環境学研究科	公共政策と高校での学び（すべての学びに理由がある）	○	
		公共政策とは、一人ひとりでは解決できないような社会の問題を、社会全体の力を使って解決していく取り組みです。公共政策をより良いものにするには、社会全体と一人一人の生き方、両方に目を向ける必要があります。さて、公共政策をつくったり、実行したり、良くしていくためには、具体的にどんな能力が必要なのでしょう。実は皆さんが学校で学んでいる内容は全て、公共政策を創ったり実施したりするためにとても役立つものです。この講義では、公共政策と学校での学びとの関係をお話します。皆さんの日々の学びが、よりよい社会を作る力につながることを、お伝えできればと思います。		
0829	人間・環境学研究科	市町村と私たちの暮らし	○	
		政府という言葉聞いて何を思い浮かべますか？立派な建物？スーツを着た官僚の姿でしょうか。市町村は、「地方公共団体」「地方自治体」と呼ばれ、一定の決まりをつくらたり人々の暮らしを維持する業務を行ったりしていますが、これらもまた、地方政府といって政府のありかたの一つと言えるでしょう。日本には今、1700以上の市町村があります。市町村は、私たちの生活に最も身近な仕事してくれる政府です。市町村では地域の事情にあわせた、オリジナルな事業も行っています。この講義では、市町村のオリジナリティあふれる取り組みをみていきます。市町村の取り組みを知ることを通じ、日本には色々な特徴・魅力を持つ地域があって、それを守る人たちががんばっていることを、感じていただきたいと思います。		

0830	人間・環境学研究科	いま、戦争について考える ―朝鮮半島と「私」たち―	○	
		皆さんは「日本が関係する戦争」と聞くと、何を思い浮かべるでしょうか。本授業では、「戦後75年」と言われている今日の日本において、日本が今も関わっている「戦争」について考えていきます。今日の日本経済の基盤となっているのが、朝鮮戦争の際に発生したいわゆる「朝鮮特需」であることは知られていますが、この朝鮮戦争の後方司令部は、今も日本の米軍基地に置かれています。授業を通して、日本が「戦後」以降に関わってきた戦争と、今日まで続く、日本に暮らす人びとの日常の暮らしに直接的に関わっている問題を事例として扱いながら、特に朝鮮半島と私たちの平和について考えていきます。戦争と私たちの生活が無関係でないことを知り、考えてもらうことが目標です。		
0831	人間・環境学研究科	文化人類学で考える ―日本と「北朝鮮」のつながり―	○	
		「北朝鮮」という言葉を聞いて、皆さんは何を考えますか。この授業では、人びとの日々の暮らしを研究対象とする「文化人類学」の観点から、日頃あまり取り上げられない、日本と「北朝鮮」のつながりについて考えます。日本から見ると極端にネガティブなイメージしか浮かんでこない「北朝鮮」ですが、実は日本と「北朝鮮」の間には、50年以上にわたって両国に別れて親族が暮らしている人びとがいるという、他の国にはない深い関係があります。多面的な観点からものごとを見ることの重要性を伝ええると共に、私たちの世代で解消しなければならないトピックの一つである、朝鮮半島問題について考えてもらおうとします。		
0832	人間・環境学研究科	私たちを守る「労働法」	○	
		働く人たちを守る法律は「労働法」である。「労働法」は何を目的として制定されたのかを知った上で、新型コロナウイルスの影響により生じている問題を取り上げ、それを労働基準法を用いてどのように解決するべきなのかについて、行政通達を挙げながら考える。使用者と労働者それぞれの立場に立ってバランスのとれた解決を導く難しさ・面白さを感じていただくことを目指す。		
0833	人間・環境学研究科	働く人を守る「労災保険」	○	
		我が国の「労災保険」制度について、その目的、どのような場合に労災にあたるのか、労災保険の給付の内容等、基本的なことをまず学ぶ。その上で、講師自身の実際の研究について、概要を紹介する。具体的な問題を抽出し、どのような手法でその間に対する答えを導くのかについて簡潔に解説する。その一連のプロセスが、社会課題の解決につながることに興味をもっていただくことを目指す。		
0901	アジア・アフリカ地域研究研究科	Melは何しに「インド」へ？！	○	
		本授業の目的は、「地域研究」という研究スタイルについて知ってもらうことです。「研究」と聞くと、理科室の実験を思い浮かべる人が多いかと思います。しかし、大学院には、特定の地域（主に海外）へ出向き、そこで生活を送りながら、既存のものを問い直すという地域研究があります。簡単に言うと、「世界の果てまでイッテQ?！」です。この地域研究では、世界の果てで一体何をしているのか。インドでのフィールドワークを事例に、地域研究のおもしろさをお伝えしたいと思います。		
0902	アジア・アフリカ地域研究研究科	まるで Bollywood 映画のような「特別支援学校」	○	
		本授業の目的は、インドの特別支援学校を事例に、「障害者」との共生社会を考えることです。特別支援学校と聞くと、「暗い」「障害者が行く学校」といったイメージをもたれるかもしれません。そういったイメージを覆してくれるのが、インドの特別支援学校です。まるで Bollywood 映画のように踊り狂っているのですが、よくよく見ると遊んでばかりではないのです。この不思議な学校を事例に、「障害者」と「そうでない人」が共に授業を受けるのは可能なのか、一緒に考えていきたいと思います。		
1101	総合生存学館	難民と国内避難民	○	
		2018年末に紛争や迫害によって移動を余儀なくされた人は7080万人いると言われており、そのうちの2590万人が難民です。国内避難民は4130万人で、実は難民より、国内避難民の方が人数が多いです。難民と国内避難民、その違いはなんでしょうか？また、どうしてあまり国内避難民に関して報道はされないのでしょうか？彼らが抱えている問題はなんなのでしょうか？一緒に勉強していきましょう。		
1102	総合生存学館	ミャンマーの少数民族教育	○	
		ミャンマーでは、公立学校や私立学校以外にも、様々な学校があります。お寺で授業を受ける、僧院学校など、耳にしたことがある人も多いのではないのでしょうか。ミャンマーは多くの民族が生活していることでも知られています。ミャンマーで、少数民族がどのように教育を受けているのかも一緒に勉強していきましょう。		
1103	総合生存学館	文系と理系の間：課題解決型研究のすすめ	○	
		高校で学び、大学進学の際にまず考えることは、「文系・理系どちらを選ぶのか？」ということだと思います。実際、高校生の時に将来何になりたいか、また、文系・理系どちらに進むか悩んでいました。そして、近年では、高校や大学初年次で文系と理系を掛け合わせて、地域・地球規模の課題を解決する研究教育も進められています。この授業では、文系・理系に縛られず、どのようにして課題を設定しその解決に向けた研究を進めるのか、思考法や研究の進め方について一緒に考えていきましょう。		
1104	総合生存学館	レジリエンスってなんだろう？ -自然災害からの復興から考える-	○	
		近年では、地震や津波、台風、洪水、土砂災害、干ばつなど自然災害が増加・増大しています。今、そして将来、現地の対応能力を超えた自然災害を経験して、より多様な困難を抱えた人々の生活に資する災害復興のあり方とはどのようなものなのでしょうか？そのあり方を「レジリエンス」という言葉をもとに紐解きながら、私たちがこれから自然災害をどう防ぎ、また、被害を減らすのかを模索していきます。		

1201	地球環境学舎	工夫次第でワークライフバランスはとれる！私の育児・研究両立例	○	
		多くの女性が人生の最も充実した年代に育児を行うことになりましたが、育児のために他の可能性を諦める必要はありません。双方を追い求めることはもちろん楽では有りませんが、その努力により生まれる相乗効果もあります。 本講義は私が自分のミッションとして選択した研究を例に、多くの女子学生のみならず、そしてもちろん未来のババである男子学生のみならずに向けて、自分のミッションの追求と育児とを両立する必要性（ワークライフバランス）、およびその意義について私見を提示し、この先の長い人生デザインについて、受験を控えたこの時期に一考する契機を与えることを狙いとしています。		
1202	地球環境学舎	研究計画をたててみよう！社会科学編	○	
		研究は研究計画の策定から始まりますが、ここはとても楽しい作業であると同時に、その後の研究の内実を決める大変重要な部分です。 本講義ではそのさわりの部分を説明し、大学入学後、何らかの研究計画をたてるにあたり、スムーズに作業に入れるよう、更にはその着地点を意識しながら目前の受験勉強や大学入学後の学生生活を送れるよう、追究したいことを現実的な計画に落とし込むわくわく感と厳しさに触れる契機を与えることを狙いとしています。		
1301	ウイルス・再生医科学研究所	ウイルスはどうやって感染するの？	○	
		ウイルスは細胞にどのように感染するのか。感染するとは、どういうことか考えながら、そのメカニズムについて一緒に考えてみたいと思います。また、どういった実験をするとそれを調べることができるのかについても紹介します。		
1302	ウイルス・再生医科学研究所	ウイルスの薬やワクチンの研究	○	
		ウイルスを知ること、創薬・ワクチン研究はどのように関わるのか。高病原性ウイルスを扱う研究室での研究の一端を紹介しつつ、ウイルス研究に関する社会的な課題についても少し紹介します。		
1401	生存圏研究所	失われる熱帯の森と生物多様性	○	
		熱帯は一見すると無関係と思われがちだが、私たちの生活のごく身近なところと深く関係している。何気なくコンビニで手にとる商品も、それは熱帯へとつながる隠されたゲートである。近年過度な商業伐採やアブラヤシ農園の建設などによって熱帯林は急速に消失しつつある。私たちの未来において、熱帯林の持続的な利用のあり方とは何なのか？また、熱帯林の消失にともない失われつつある生物多様性を守っていくために私たちに何ができるのか？そもそも生物多様性はなぜ重要なのか？これらの問いに明確な答えを見出すことは難しい。今、熱帯林で何が起きているのか、その最前線を紹介し、問いの答えと一緒に考えていきましょう。 本授業では、教室で学ぶ枠をこえた現場調査“フィールドワーク”をメインに話します。高校の文系理系の枠を問わず、その両方の知識を応用し、地球レベルの環境問題（気候変動など）に立ち向かっていく大切さ、高校で学ぶ様々な科目の応用形として大学研究があることを熱くお伝えします。		
1402	生存圏研究所	植物にとって熱帯は楽園か？	○	
		熱帯の森と聞くと何を想像するだろうか。新種、密林、生物の宝庫、そんな言葉が頭をよぎるのではないだろうか。種多様性が高い熱帯の森は、一見すると生物にとっての楽園のように思えるかもしれないが、実際の暮らしは超過酷なサバイバルである。例えば植物をみると、葉に細かいツノを持つ植物、他種に寄生して生きる植物、狩りをする食虫植物など、その特徴それぞれには意味があり、過酷なサバイバル生活を生き延びるための知恵に溢れている。しかしながら、このサバイバル生活は未だ多くの謎に包まれており、まさに研究真っ只中なのである。自身の経験も交え、熱帯林研究の最前線から、楽園！？の植物の暮らしの裏側に迫る。最後には、この楽園に訪れている危機にも触れ、生物の豊かさが私たちの生活と関係が深いことを感じてもらいたい。 本授業は、高校科目【生物と地理】に関係が深いように思われるかもしれませんが、文系理系を問わず、興味関心を持ってもらえるようにわかりやすく解説します。教室を飛び出した世界で、これまで高校で学んだ様々な知識と経験を活かす楽しさ、大学で新たに会おう現場調査“フィールドワーク”の世界を熱くお話しします。		
1601	東南アジア地域研究研究所	なぜ音楽は政治利用されるのか？	○	
		新型コロナウィルスの影響により歌手・星野源が「うちで踊ろう」という弾き語り動画をSNS上でアップすると、安倍首相はその動画の人气にあやかり、楽曲に合わせて自身の姿を撮影し話題となった。これに対し世間は「音楽の政治利用だ！」と批判した。 なぜ音楽は政治利用され、歴史的にいつ、どんなときに音楽は政治利用されてきたのか。 この授業では音楽の政治利用が抱える問題点について、さまざまな事例を紹介しながら理解を深める。それによって、一見無関係にみえる「音楽と政治」が非常に密接なつながりを持ち、社会を映し出す“鏡”のようになっていることを学ぶ。		
1602	東南アジア地域研究研究所	メディアとポップ・カルチャーのグローバルゼーション	○	
		昨年、ジャニーズの人気グループ「嵐」がYouTubeで動画配信や音楽配信を解禁し話題となった。ポップ・カルチャーの消費はメディアと切っても切れない関係にあり、近年はSNSの急速な広がりにもない、テレビなど旧メディアとはことなる新たな市場戦略が求められている。ではジャニーズはなぜ最近にいたるまでSNS上の発信を遅々として解禁してこなかったのか、逆になぜ今になって急に解禁したのか。その背景を消費文化のグローバルゼーションの視点から理解する。アジアのポップカルチャーを席卷するK-POPとの比較や、東南アジア市場戦略などを念頭に、身近な話題が世界の動向といかに連関しているのかを学ぶ。		

<<課題探究支援型>>

提供授業ごとに、オンデマンド配信20分間と45分間、およびリアルタイム配信45分間があります。

高等学校での利用方法に合わせてお選びください。

なお、オンデマンド配信につきましては質疑応答は別の日時になります。お申し込み時にご希望の日時を明記してください。

学びコーディネーターとのマッチングが不調の場合、質疑応答は実施されません。

リアルタイム配信では、45分の時間内に質疑応答も含まれます。お申し込み時にご希望の日時を明記してください。

学びコーディネーターとのマッチングが不調の場合、リアルタイム配信は実施されません。

下記表で、連続した色は同一講師を示しています。

授業番号	所属研究科	授業テーマと内容	オンデマンド配信	オンデマンド配信	リアルタイム配信
			20分	45分	45分
1701	医学研究科	①課題探究の全容と、テーマの見つけ方- 課題探究の意義を明確に -	○		
		なぜ今、課題探究をするのでしょうか。というかそもそも、課題探究/課題解決とは何なのか。僕が高校生の時、総合学習の時間は「あー、めんどくせえ、受験勉強させてくれえーい」というような時間でした。あなたたちはどうでしょうか。 今でこそ僕は、課題解決のプロセスは人生のできるだけ早い段階で、必ず経験しておくべきだと、自信を持って言えます。個人でやるにせよ、チームでやるにせよ、大切なのは、【ガチ】になって取り組むこと。グループで何か成し遂げるのが面倒だって？ 本講義では、最高のチームワークを進めるマインドセットに始まり、課題探究の意義、そしてテーマ（課題）の見つけ方を探ります。 #チームワーク #課題(テーマ)の見つけ方 #原体験 #社会トレンド #人生の青春			
1702	医学研究科	②仮説検証ループ：データの取り方と評価 - 適切な課題発見のための、データとの付き合い方 -	○		
		本講義では、文献調査 / アンケート調査 / ヒアリング / プロトタイピングの4項目に大別し、大人顔負けの「データの取り方」と、「データから何をどう読み解くか」の洞察について迫ります。 課題解決において最も大事なポイントの一つは、「設定した課題の適切さ」です。ここがズレると、どれだけいいアイデアを出そうと、後で必ずガタが来ます。よく言う「アンケート/データをとりましよう」の意義はここにあります。つまり、自分たちの設定課題が適切であることを徹底して検証することです。 そこで、適切な解決策創出のための、効果的なデータの取り方について、演者の研究手法も交えながらお話しします。 #仮説検証 #データの取り方 #データ分析 #成功指標(KPI)の設定と評価 #インサイト			
1703	医学研究科	①課題探究の全容と、テーマの見つけ方- 課題探究の意義を明確に - ②仮説検証ループ：データの取り方と評価 - 適切な課題発見のための、データとの付き合い方 -		○	○
		授業番号1701と授業番号1702を連続で実施します			
1704	医学研究科	③解決アイデアの創発と4つのアウトプット戦略	○		
		自分たちの設定した課題を解決するに相応しい優れたアイデアはどのように発案されるのでしょうか。大人もあっと驚くようなアイデアは、意外性と納得性を兼ね備えています。そしてこのアイデアを、あなたたち高校生が社会に実装・還元するには、どのように成果をアウトプットしたらよいのでしょうか。 本講義では、医学研究科で研究する院生が実践している「アイデアの見つけ方」を紹介し、着想したアイデアをリアルに実践する4つの方法（提言・開発・対話・研究）を体系的に紹介します。高校生でも大きなインパクトを創出できる課題探究活動の出口戦略について考えます。 アイデアは、偶然に頼るものではありません。偶然を意図的に創発するものです。 #アイデア発想 #デザイン思考 #解決策 #出口戦略 #実践			
1705	医学研究科	④事例紹介：認知症介護プラットフォーム「こえつなぐ」	○		
		これまでの講義①から③を踏まえ、過去に演者がメンタリングした高校2年生（当時）の課題探究活動を紹介します。紹介するアイデアは、「Google Homeを用いた認知症介護者の心理的負担軽減策」です。約3ヶ月の課題探究で彼女らは、Yahoo Newsや関西テレビに取り上げられるようにまで成長します。 一体どのようにして「認知症」というテーマを洗い出し、その中からどのようにして課題（テーマ）を見つけ出したのでしょうか。そしてどのような活動を通してスマートスピーカーという先端技術による解決策まで漕ぎ着けたのか。その全貌を垣間見ることで、高校生のレベルを超えられるような課題探究活動の真相を探りましょう。 #事例紹介 #実学 #認知症 #コミュニティ #テクノロジー			
1706	医学研究科	③解決アイデアの創発と4つのアウトプット戦略 ④事例紹介：認知症介護プラットフォーム「こえつなぐ」		○	○
		授業番号1704と授業番号1705を連続で実施します			

1707	工学研究科	SDGsで考えなおす「課題解決」	○		
		今や誰もが大切と考え取り組んでいる課題解決。そこで、「ある課題を解決すること」とはどのようなことなのか、そもそもどこから考えてみましょう。例として、世界共通の課題を示したSDGs（持続可能な開発目標）や、近年非常に注目されているプラスチック問題にも触れながら、「課題」と「解決」について考えてみます。答えはなくとも、大学らしい本質的な議論に繋がる問いを投げかけます。			
1708	工学研究科	京大式『超』SDGs入門ワークショップ			○
		SDGs（持続可能な開発目標）を知っていますか？SDGsは2015年の国連サミットで採択された、誰一人取り残さず地球を維持させるための17の目標と169のターゲットからなる国際目標です。ますます耳にすることが増えているSDGsについておさらいし、京大で行っている持続可能性に関する取り組みを参考にしながら、SDGsを超えて様々な視点から持続可能性を考えるワークを行います。			
1709	農学研究科	研究は「準備」が9割！			○
		俗に言う「良い研究」とは何でしょうか？私自身は、いかに事前準備をしたかが研究の質を左右すると考えています。それでは、「○○について研究をやってみよう！」と思い立った時、まず最初に何をすればいいのでしょうか？この授業では、研究活動をするにあたってどのように課題を見つけるか、そして例えば実験を開始する時にはどのような準備をしたらいいのか、私の経験を踏まえてお話できたらと思います。			
1710	人間・環境学研究科	生物の課題研究を行う		○	
		生物の世界はまだ未知のことが多く、大学はもちろん、高校での研究が世界的な関心を集めた例が幾つもあります。私は高校生の頃から生物の研究をして来て、今も日々、生物研究に浸っています。 この授業では、生物の研究を始めるきっかけや、研究の進め方を事例を交えてお話しします。前半では、高校でのテーマの見つけ方として、私が海無し県のSSH校で行っていたクラゲの研究のお話を、後半では、研究の進め方及び発表のまとめ方として、現在大学で行っている貝とウニの共生系の研究についてお話をします。			
1711	情報学研究科	オーラルプレゼンの極意			○
		課題探究活動のみならず、Power Pointを使用したプレゼンテーションを行う機会は増えているかと思います。今回は、特に「アカデミックな」オーラルプレゼンテーション（Power Point使用）での構成の仕方、スライドの作り方、話の仕方等のコツをお伝えします。			
1712	情報学研究科	ポスタープレゼンの極意			○
		課題探究活動では、ポスタープレゼンテーションを行うことも多いかと思います。日頃見慣れないポスタープレゼンはそもそもどのようなものなのか。限られた面積にどのように情報を載せていくのか。オーラルプレゼンにはないインタラクティブ性をどのように活かすのか。そのコツをお伝えします。			

応募方法

インターネットによりご登録いただけます。以下の申し込みフォームからお申し込みください。

申し込みフォーム

- ① オンデマンド配信（20分授業）1授業を希望
<http://kap.shingaku.jp/kyt-manabi2020-od1/>
- ② オンデマンド配信（20分授業）2授業（同一日）を希望
<http://kap.shingaku.jp/kyt-manabi2020-od2/>
- ③ オンデマンド配信（45分授業）1授業を希望
<http://kap.shingaku.jp/kyt-manabi2020-od3/>
- ④ リアルタイム配信（45分授業）1授業を希望
<http://kap.shingaku.jp/kyt-manabi2020-rt/>

申込み開始について

2020年8月24日（月）から申込受付を開始します。